

# ネットいじめを考える劇を通して

甲南女子大学日本語日本文化学科 富田幸子

## 1. 劇にみるネットいじめの変遷

今年も各学校で情報モラル教育関連の授業をする機会があった。学校現場の先生たちによると、最近の生徒指導事案の8割近くがネットがらみであるという。GIGA スクール構想により、1人1台の端末を持つ時代、今や小学校1年生からタブレットを使いながらの授業も当たり前である。子どもたちの生活にネット文化が浸透し、これからもネット社会が大きな影響を持つという流れは変わらないだろう。

筆者は、2008年度より2018年度までA市で上演されたいじめ撲滅劇の指導に携わってきた。上演初年度の2008年は、ネットいじめが問題となり始めた時期である。いじめは、ネットの世界にも潜りこみ、そこからリアルないじめと並行し、より深刻化する実態がみられるようになった。その後もネットを介してのいじめは、様々な変遷をとげていく。

いじめ撲滅劇初年度、2008年に扱ったのは、個人でやり取りをするメールでのいじめである。ガラケーの携帯電話を使い、誰が書いたかわからない方法で、「死ね死ね死ね」などの言葉が多数の人に送られていた。まだ、SNSやブログが生徒には一般的ではなかった頃だった。次年度は、ネット上の不特定多数の人と情報交換できるアプリ、掲示板を取り上げた。学校の公式サイトとは別に、学校裏サイトという、生徒などが作成した掲示板もネット上で多く作られ、文部科学省は「学校裏サイトが38260」と発表（文部科学省、2008）し、社会問題になった。多数の人からの意見投稿という、今日の「X（旧 Twitter）」「Instagram」といったSNSを思い浮かべるが、アカウントを特定できる名前が必要なSNSに対して、掲示板は名前を使わず、ハンドルネームで自由に書き込みができるという違いがある。

そして、2013年の劇で初めてLINEを取り上げた。2011年誕生のLINE（LINE、2020）は、令和の今でも、中学生の間でYouTubeと並んでよく使われているアプリである（ライフハック、2021）。LINEが広がりだした時、それを使いたいがために、一気にスマートフォンの所持率があがっていくのを、当時学校現場にいた筆者は痛切に感じた。学校での情報モラルの授業を本格的に取り組む体制も整っていなかった時代だった。仲の良いグループだけでなく、瞬く間に学級・学年でのグループが立ちあがり、ネットをずっと見続けるしまうという生活変化、誹謗中傷的な言葉、だれかを外すなどによる人間関係のトラブルも頻繁に起こっていた。LINEの登場は、ネットの使い方が良くも悪くも、生徒たちの生活を大きく変えていくことを強烈に感じさせるものだった。

## 2. リアルな実態を盛り込む

いじめ撲滅劇の出演者はA市の生徒会メンバーである。ネットも含めたいじめの実態をよりリアルに描くために、生徒たちとの話し合いは必須であった。富田博之（1993）は、劇の脚本について「子どもたちの演ずる脚本は、子どもたちの感じ方・考え方からひどくとびはなれたものであってはならない。・子どもたちが自分の生活から出発して、その脚本の

役を演ずることが出来るような内容によって書かれていることが必要であり、さらに、それを演じることによって子どもたちの感じ方・考え方が次の段階へと引きあげられるよう構成される必要がある」と述べている。

生徒たちの話し合いを盛り込むことの有用性には次に様な点があげられる。

第1に、生徒の意見を反映することで、大人や教師が気付かない視点を入れることが可能となり、よりリアルな作品に仕上がる。

第2に、シナリオ委員会でいじめについて語り合った時の交流の楽しさやいじめへの真剣な思いを確認し合う経験を持つことで、劇の参加には、いじめ撲滅への熱い思い、高い意識を持った生徒が集まってくるといったことがあげられる。

最後に、A市において2015年に上演した「書かれなかったページ(改題)」の脚本を紹介する。ある生徒がノートに書いていた文章が、次々と学級の中で広まり読まれていく。本来、架空の小説だったはずの内容が、心ない悪戯により、クラスメートの悪口を書いたという誤解に結び付き、小説の作者であった生徒へのいじめに繋がるというストーリーである。

大学生になるといじめが減少するという現象がある。子どもの人間的な心の成長はもちろんだが、閉じられた空間ともいえる学級からの解放も要因の一つといえるだろう。学級は学校生活の基盤である。学級の居心地・安心感を構築していくことこそが、学校生活には不可欠である。人の目が気になる思春期、人間関係のトラブルは尽きないが、学校の中だからこそ、個人が他者との相互作用の中で変わっていく、学級という場自体も変容していくプロセスが存在する。人は、人との関わりの中で成長する。学校教育における可能性は、いじめ撲滅劇でも表現したいテーマである。

## 「書かれなかったページ」

※ Sはシーンとする

### <主な登場人物>

前野 健太	やんちゃ生徒1 谷村に悪口が書かれた思い込む
緒方 卓也	やんちゃ生徒2 悪口が書かれたと思い込み、谷村に腹を立てる
北田 俊介	学級委員 転校生
その他男子6人	
谷村 恵	小説を書くのが好きな生徒。いじめられ不登校になる
原田 緑	谷村の友達 真面目な生徒。小学校の時に本村と仲たがいがい。
本村 茜	クラスの女王といわれる生徒。自分の意見をしっかり持っている。
西本 祐実	本村の取り巻きの一人
その他女子8人	
上川先生	担任教師

S 幕前 開演ブザー

(オープニング) スクリーンにクラスカーズの説明が流れる。スクリーンが上がる

暗転

S 教室 授業風景

先生 このように、カーズトというのはインド社会の特徴を表すものですが、現代においても色々と問題を起こってるというわけですね。

チャイムが鳴る。

先生　じゃあ、今日はここまで・・・。

前野　ああ～終わったあ・・・。

植村　先生・・・早く終礼しよう。

先生　今から数学係決めます。大橋先生には今日中に決めて下さいって言われてるから。

植村　明日じゃダメなんですか？

高橋　塾に遅れちゃう・・・。(口々に文句)

矢崎　前野とのペアでやるんだよね。(首をすくめる)

みんな、口々にしゃべっている。

西本　谷村さんがやったらいいんじゃない。

植村　・・・だよ。責任感あるんだし・・・。

井川　俺もそれがいいと思いま～す。

先生　口々に言わないで。誰かやらないかな。数学の大橋先生と仲良くなれるわよ～。

福山　それは、遠慮しときま～す。

みんな、笑う。

先生　あ～困ったなあ・・・。

西本　谷村さん、どうなのよ。

谷村　う、うん。

植村　先生、谷村さんが立候補するそうで～す。

みんな拍手しだす。戸惑う谷村。

先生　いいの、谷村さん。

谷村　私・・・やります。先生。

福山　さっすが！

井川　よし、決まり！

谷村の様子をじっと見ている原田。みんな急いで教室から出ていく様子。

#### 暗転 放課後のBGM

数学のプリントを集めている原田と谷村。離れた席で、矢崎、橋本、高橋が英語のノートを集め、提出者を点検している。

谷村　ごめんね、緑。手伝わせちゃって・・・。

原田　ううん。係りのペアが前野じゃあ、恵が結局一人でやることになるの、わかってて、みんな、恵に押しつけてんだから、ひどいよね。

苦笑いでノートをチェックする谷村。

矢崎　(英語の点検を終え)よし、これで終わりっと。

高橋　ごめん。塾の宿題終わってないから、先、帰る。お先・・・。(いそいそと出る)

矢崎　もう、留美ったら勝手なんだから・・・。そっちも終わった？

原田　まだ。プリント3枚もあるのに、みんなばらばらに出すから、チェックが大変だよ。

橋本　このクラス、ほんと勝手なやつ、多いのよね。

矢崎 提出しに行く者の身になれっていうのよ。(二人で提出しに教室を出ていく。)

原田・谷村の二人でチェックを続ける。

原田 恵さあ・・・嫌なことは嫌って言わないと・・・。

谷村 う、うん。

原田 昨日のトイレ掃除の当番だってさ、恵、はっきり言わないから、西本さんたちにおしつけられたでしょ。

谷村 ご、ごめん。

原田 謝らなくていいけどさ・・・。いろんなことやらされすぎだよ。

橋本 (戻って、教室に入りながら)「ややこしいのは谷村にお任せ」って思われてるよ。恵、しっかりしないと、これからもどんどん頼まれるから。

矢崎 このクラス、仕事をやるグループとしないグループにはっきり分かれてるのよね。

橋本 茜たち1軍はいいよ。嫌なことは絶対引き受けなくても通るんだから・・・。

矢崎 緑さ、茜のこと、どう思ってる？

原田 どうって・・・。別に・・・。

橋本 茜とは、小学校の時は、けっこう仲良かったって聞いたことあるけど・・・。

原田 (全く気にも留めない様子で) これで終わりって・・・。さっさと出して、帰ろ。

谷村 緑、先・・・帰ってて。

原田 まだ何かあるの？手伝うよ。

谷村 家の鍵、忘れたんだ。お兄ちゃんが帰るのは、いつも6時回るから、これでも書いて時間つぶそうかなって・・・。

原田 いつもの小説かあ。だいぶ書けた？

谷村 (頷き) あともう少しで完成。

橋本 へえ、恵、小説書いているの？今度、見せてよ。

谷村 見せるようなものじゃあ・・・。

橋本 どんな話？

谷村 学園ものなんだ。もめごとだらけの学級が舞台になってる。

矢崎 それって、私たちのクラスじゃん。(笑)

橋本 そのクラス、最後はどうなるの？

谷村 ラストは、先生を囲んで中庭にある樹の下で、全員そろって笑顔で記念写真を撮るとか・・・まだ構想中なんだけどね。

矢崎 へえ・・・青春だね！

橋本 このクラスはそんなの無理だよな・・・。

矢崎 (頷いて) 全員で写真撮ろうって言っても、勝手に帰る奴、絶対いる。

谷村 この教室、窓の向こうに花ミズキの樹があるでしょ。3年生になって、初めてこの教室に入ったとき、あの薄ピンクの蕾がパッと目にとびこんで・・・。それが今回のラストのヒントになったの。

橋本 ハナミズキ？どんな花？

原田 薄ピンクの花だよ。春にすごくきれいに咲いてたじゃん。  
橋本 そうだったっけ？  
矢崎 私は覚えてるよ。ね、小説ってさ、書くコツがあるの？  
谷村 空想の世界だから、その時に思いついたことを書くだけだし、大したことないよ。  
原田 謙遜しなくていいじゃない。恵は小学校の時に、作文で2回も表彰されたんだから。  
橋本 そうなんだ。  
矢崎 じゃあ、今度、絶対見せてよね！  
谷村 う、うん。  
矢崎 なんか気のない返事。私たちには見せられないの？  
原田 まあ、完成を待ってそれからってことで。じゃあね、恵。(3人出ていく。)  
にっこりほほ笑み、小説を書き始める谷村。

**暗転**

S 幕前 3人で帰っている。

矢崎 今度の校外学習、班行動らしいけど、緑、一緒の班になろうよ。  
原田 グループは何人？  
橋本 男女混合の6人だって。  
原田 じゃあ、女子は3人かあ。・・・無理じゃない。麻耶は悠希と一緒にでしょ。そこに私と恵の2人が入るのは・・・。  
矢崎 ・・・だよ。恵は・・・緑と離れるのは難しいっか！  
原田 (頷いて) うん。じゃあ、ばいばい。(1人退散)  
矢崎 ばいばい。(原田の背中を見ながら) 不思議だよ。緑はなんで、恵なんかとくっついてんだろ。  
橋本 まあ、人それぞれってことじゃないの。  
ぶつぶつ言いながら退散する2人。

**暗転**

S **ラインの画面(原田と谷村の2人だけのライン) スクリーンに映る**

原田 どう、頑張ってる？  
谷村 もうすぐ完成しそう。  
原田 すごい！早いじゃん。  
谷村 スタンプ(照れ笑い)  
原田 ラストは・・・全員の記念撮影？  
谷村 まだ迷ってる。大事なシーンだからね。  
原田 こだわるねえ・・・おぬしも・・・。  
明日、持ってきてよ。矢崎も見たいって言ってたよ・・・。  
谷村 緑以外に見せるのは・・・う～ん。(悩むスタンプ)  
原田 自信持ってよ・・・。恵のファンクラブ、私が第1号！  
谷村 (笑うスタンプ)

**暗転**

S 教室

放課後開始のチャイムが鳴る。

みんなワイワイ騒いでいる。その中で校外学習の班を決めている。

先生 4時までは延長してもいいけど、その後は、みんなさっさと帰ること。いい？

数人 は〜い。

先生 それから、今日の提出物がまだ出てないらしいよ。それも、4時までだから、係の人は、絶対出しておいて。(出ていく)

みんな、口々に反応。

前野 まだ決まらないのかよ。めんどくせえな、女は。

緒方 たかがグループを決めるのに命がけなんだから・・・。

北田 あとどれくらいかかりそうかな？

奥村 どうだろ・・・。2人一緒にないと駄目な人が、まだあれだけいるから・・・。

西本 無理！私は・・・茜と葵の3人一緒にないと、私、校外学習、行かない。

福山 おまえ、いい加減にしろよ。

井川 そんな我儘言ったら、いつまでたっても決まらないぞ。

西本 あんたたちだって、仲いい同士で組んでるじゃん。

福山 それは、たまたまだろ。

井川 女子みたいに、おててつないで、トイレまで行くような仲の良さ、俺らには、ないからな。(ふざけて、女子のまねで)「トイレ行こう！」

みんな笑う。

奥村 4時まで、あと10分か。こうしよう。2人のうち1人が代表で出て・・・じゃんけんで決める。

山本 よし、それしかない。

西本 負けたらどうしよう、茜。

本村 そのときはしょうがないよ。

ぎゃあぎゃああと騒ぎながら、じゃんけんを始める。

西本 きゃあ〜茜・・・勝ったあ・・・。

何組か勝つ。矢崎も勝つ。原田は負ける。谷村に謝りに行く原田。あきらめ顔の谷村。調整を始める学級委員。

橋本 (原田に近づき) 緑のところ、負けたんだよね。一緒になろうよ、緑〜。

原田 う、うん。恵、どうしよう？

谷村 (ノートを出し小説を見ている) 私は、どこでもいいよ。入れてくれるところあるんなら・・・。

原田 じゃあ、決めるよ。(調整の輪の中に入る)

矢崎 恵、何してんの、あ〜・・・例の小説！

谷村 うん。(慌てて隠す)

矢崎 隠さなくてもいいじゃない。それともなんか都合の悪いことでも書いてるの？

谷村 そんなことないよ。  
矢崎 じゃあ、見せてよ。  
谷村 また、こ、今度・・・。  
矢崎 何よ。緑には見せてるくせに。・・・やな感じ・・・(怒って離れる)  
福山 お〜い。今から、理科のノート、集めるから、出す奴、ここに持ってこいよ。  
東口 社会のノートは、こっちに持ってきて下さ〜い。(みんなそれぞれ出しに行く。)  
西本 あ、理科のノート・・・忘れた。取りに帰らないと。葵、一緒に行つて。  
川崎 世話やけるな〜。  
奥村 西本さん、男子グループとどう組むかは、どこでもいい？  
西本 (帰りながら、井川をたたく) 井川、一緒に組もう！  
井川 え〜・・・俺らにも選ぶ権利あるだろ。  
川崎 私たちが不服ってこと？  
井川 い、いや、とんでもありません。よろしくお願ひします。

社会のノートを出し、慌てて出ていく西本と川崎。遅れて本村も出ていく。

福山 おい、井川、ほんとに、あいつらと回るのか。おれはごめんだな。  
井川 そう言うけど、お前、断れるのかよ？  
酒井 まあ、そう言うなよ。(笑いながら、井川の肩をたたき) お前らなら出きる！  
門脇 任せた！

みんな笑う。すねたような井川・福井。からかいあつてる男子。

東口 みんなもういい。出してくるよ。(出ていく)  
原田 どうしたの、恵？  
谷村 (鞆を探りながら) 社会のノート、隣の組の裕美に貸したままだった。  
原田 え〜。隣のクラスなら今さっき帰っていったよ。待っててあげるから、追いかけて取っておいでよ。

急いで出ていく恵。恵の机の上のノートをさりげなく見る原田。班の調整を続けている学級委員

奥村 もう4時なので、負けた組の人ほどのグループに入るか、明日の朝、決定します。  
北田 いいかな、それで。  
緒方 よし、帰れるぜ。  
高橋 お先・・・(出ていく)

次々、出ていく。ノートを読み続ける原田。

#### 暗転

放課後(部活動をしているグラウンドの音など)のBGM

S 教室 放課後その続き

川崎 よかったね。理科の田中先生、受け取ってくれて。  
西本 あの先生、泣きついたら結構受け取ってくれるのよ。前もそうだった。  
川崎 (教卓上のノートを見て) はや！社会、もう返却されてる。

西本 (自分のノートの中を見て) Aだ。よかった。

川崎 (自分のノートを見て) 私とは・・・Aダッシュ?・・・なんでよ。

西本 字が汚いからよ、きっと。(他のノートも見る)

川崎 ひっど～。あんたと変わらないのにさ。

西本 (川俣のノートをのぞきこんで) ここ、最後まで書いてないじゃん。ああ見えて・・・  
吉村先生、細かいところまで見てるんだから・・・。

川崎 貸して、今、うつすから・・・。

西本 (溜息)・・・授業中にちゃんとやりなさいよね。  
「はいはい」と言いながら、ひたすらうつし始める川崎

西本 (ほかの人のノートを見て) さっすが3年。みんな出してるね。(恵のノートの中身を見て)。えっ・・・これってなによ。「綾香は、勉強はそんなに出来ないのに、自分が一番偉いと思ってる。我儘でクラスの女王気取りの女だった。」(読み始める)

川崎 なにそれ。誰かの落書き・・・。(まだ能天気な、必死で、ノートを写している)

西本 落書きじゃないよ。これって小説かな?

川崎 (立ち上がる) へ～、そんなのだれが書く?誰のノートよ?

西本 綾香にいつもくっついてみんなに偉そうにする智子は、今日もテニス部をさぼり、先生に怒られていた。

川崎 それって、あんたにそっくりだよ。

西本 誰よ。こんなの書いているの。(怒って・・・次々とページを繰り出す)

川崎 (憤慨しながら)・・・。この字は・・・さ。  
2人で、他のノートも調べ始める。

#### 暗転

#### S ラインの映像 **スクリーンに映る**

誰もいない教室、放課後、発見!

なになに?  
クラスメートの悪口をノートに書いてた奴がいる。  
誰?許せない!(怒りのスタンプ)  
誰が犯人?  
3軍のエース。  
まさか?  
まさかのあいつです!(ビックリスタンプ)  
俺もびっくり!登場してんだ。  
※現物の写真 漫画など  
これ、前野の悪口?  
なるほどね。  
明日、クラスで、回すから。  
今日のうち、このノートを読みたい人は、白鳳神社、9時集合!  
塾の帰り、いきま～す。  
私も・・・。((「いざ参上」みたいなスタンプが続く))



暗転

S スクリーン 校庭の背景 翌日

中庭の中で、一部破られたぼろぼろのノートを拾う谷村が呆然としている。

暗転

S 教室 休み時間

端っこに恵の机。恵に向かって相沢がわざと押される。そこにだけ薄暗いライト  
机の上で顔を伏せる恵。そこに向かって前野が暗闇から雑巾を投げる。

S 幕前 スクリーン (京都のような街の映像)

校外学習移動中のグループ つり革を持つポーズ、電車の中で揺れている

北田 余裕だな、俺達・・・。

酒井 クイズも全問解けたし、この分だと1位かもな。

矢崎 楽しかった。このメンバー最高！

暗転

男女仲良く楽しそうに通り過ぎる矢崎グループ。しばらくして、通りかかる茜グループ。

前野 おい、また怒られるぜ。一人足りねえと・・・。

井川 お前ら、ちゃんと面倒みといてくれよ。

西本 後ろ付いてこないのが悪いのよ。

福山 どんくさいなあ。谷村の奴。

西本 だいたい、どこにも拒否られて、可哀そうだから、私たちが入れてやったのにさ。

本村 どうせ駅では待ってるって。帰りの切符、持ってないんだし・・・。

前野 (ため息) とにかく、いこうぜ。

しばらくして、戸惑ったように1人遅れて歩く恵。

暗転

S 教室 放課後

何人か掃除中、原田らの周りに数人の女子。原田が数学を教えている。

豊田 ありがとう。昨日の授業で全然わからなかったけど、緑に教えてもらおうとすっごく  
わかる。

矢崎 緑の教え方って、先生よりうまいよ、きっと。

原田 それはないよ。(笑いながらノートをうつし出す)

周りも同意の意見を言っている。

豊田 それ、恵用・・・。

原田 うん。

奥村 恵、いつになったら学校に来るかな。

東口 校外学習終わってからだから、もう2週間？

高橋 仕方ないわよ。クラスを敵に回すようなことを書いたんだから。

奥村 (話題を変えるように) ね、緑は、やっぱり高崎高校。

原田 まだ、決めてない。

山本 お前と北田ぐらいだろ、このクラスで、高崎、目指せるの。  
酒井 高崎高校は、去年もこの中学から5人しか合格してないらしいぞ。  
矢崎 緑なら大丈夫だって。  
橋本 やっぱ最後は、実力あるものが勝つってことよね。  
西本 (離れた席から) なんか、感じ、わる～！  
植村 かえろ、裕美。

本村も含めた4人で帰っていく。

酒井 あいつら最近、イライラしてるな。  
門脇 あせってんだろ。あいつらだって受験するんだから、  
高橋 茜は、堀河高校、狙ってるって・・・聞いたことある。  
酒井 やっぱりな！この前の数学、あいつが一番だって聞いたぜ。  
井川 本村が受けるんだったら、おれ、堀河受けるのやめとこうかな。  
矢崎 あんたが堀河？冗談は顔だけにしなさいよ。  
井川 言うだけは、ただだから、いいだろ。  
矢崎 だったら許してあげる。

みんな笑う。

北田 みんな、本村、怖いっていうけどさ。俺は、あんまりそうは思わないんだけど。  
福山 お前は転校してきて、本村のこと知らないから、そんな風に言えるんだよ。  
門脇 あいつ怒ったらマジやばい。  
井川 校外学習の時も・・・おれ・・・ホント気を遣ったわ。  
福山 僕もびくびくしておりました。ハイ。(体を震わせる)

みんな笑う。

井川 俺、西本も苦手だな。「自分たちは1軍！」ってオーラ出しまくりでさ。  
矢崎 それは、西本の勘違い。オーラがあるのは茜だけ。  
高橋 もし、茜がいなくなったら、西本も今みたいに偉そうには出来ないよ、きっと。  
山本 こんなふうになんか言われちゃって・・・可哀そうな奴ら・・・。  
酒井 でも、あいつらも、最近は先生ともぶつからなくなってきたぜ。  
豊田 きっと受験を気にしてるんよ。  
福山 女王様たちも受験には勝てないか。

暗転

S 教室

教師がテストの机間巡視。茜の机の上の落書きを発見し、立ち止まる教師。

教師 これはなに。本村さん。後で職員室・・・来なさい。  
本村 (机の上を見て) こんな私、書いてません。  
教師 とにかくあとで・・・。  
本村 書いてないって、いつてるじゃん。

暗転

S グループライン(クラスの一部のグループでやっている) **スクリーンに映る**

この時期にカンニングやるなんて・・・いい根性してる！  
あせったか、女王あかね様！  
天罰だな。  
でも、怒ってたな・・・怖いぞ～女王に睨まれたら・・・。  
怖い～怖い～(スタンプ)  
茜たち、さすがに偉そうにはできないよね。  
ついに1軍落ちですかね。  
2軍？  
いいえ、最下位です。  
いいね。  
明日から楽しみ～

S 教室 放課後(卒業式を5日後に控えている)

先生 じゃあ、このクラスの同窓会代表は、北田君と奥村さんの二人でいいですね。

数人 は～い。異議なし。

先生 (頷いて) 今みんなが見てる写真、アルバムには載ってないから、もし欲しい人がいたら、プレゼントします。

「やった～」 「見たい見たい」・・・など数人が群がる。

矢崎 先生(写真を見て上にあげる) これ、欲しい！

先生 みんな、適当に、希望、書いてて。卒業式までには焼き増ししてあげる。放課後の活動は4時半まで、写真見終わったらすぐ帰ること。いい？(出ていく)

豊田 上川先生、ほんと親切。担任、上川先生で良かった～・・・。

東口 前は頼りないって言ってたくせに・・・。

豊田 そんなの言ってたかな～。(苦笑い)

色紙を書いている者もいる。本村は一人離れたところで、勉強している。離れた所で写真を見る西本達。

山本 (笑いながら色紙を見て) すげえ、たけし、上川先生の特徴、ばっちりだな。

相沢 おれ、絵だけ取りえだからさ、描けてうれしいよ。

奥村 何か一言必ず書いて帰ってね。明日、全員の先生に色紙渡すつもりだから・・・。

嫌そうな顔をする西本達

原田 (写真見ながら) これ・・・1学期のバレーボール大会のあとに写したやつだね。

東口 いいねえ～。みんなの笑顔。

原田 恵も笑ってるね、この時。

みんな、黙ってる。何とも言えない間

山本 さっさと色紙仕上げて帰ろうぜ。(みんな書き始める。)

原田 この色紙、書いてほしいな。恵にも。

矢崎 緑って・・・(力強く)ほんと・・・友達思いなんだよね。

本村 (みんなとは少し離れたで勉強している) 友達思いか。ふっ・・・、  
少しひきつる原田

井川 なんだよ。その意味深な言い方！  
本村 別に。  
緒方 俺、知ってるぜ。原田と本村って、もともと仲良かったんだって・・・。  
前野 (面白そうに) まじか。  
緒方 1人の男を取り合いしてから口もきかなくなったって、え〜と、そう、隣の組の山田から聞いた。  
前野 そうなのか。1人の男って、誰だよ？俺じゃないよな。  
緒方 小学校の違う前野は、知らないやつだよ。そいつは転校したから、この中学には来てないんだ。  
福山 1人の男をめぐる女の闘いかあ。  
川崎 大げさに言いすぎなんだよ。闘いなんかしてないから。茜が怒ったのは、その男子のLINEに、緑が茜の悪口を送ったことが始まり。ね、茜。  
原田 (弱々しく) そ、そんなつもりで送ってないから・・・私・・・。  
里村 もういいって。昔のことじゃん。とっくに忘れた(勉強続ける)。  
門脇 でも、LINEって、怖いよ。書き方で誤解されることもあるし、本人がいないところで、みんな大胆に好きなこと書くだろ。  
豊田 恵の不登校だって、あのLINEが原因だよな。  
本村 悪口をだれも止めないクラスなんて、来れないよね。谷村が来なくなる日の前、あの子、中庭で一人泣いてた。(勉強続ける)。  
相沢 (しみじみと) 俺も見たよ。ぼろぼろになった水色のノート握りしめて・・・谷村・・・震えてた・・・。  
奥村 あと一週間もないけど、恵、卒業式までに来るよう、なんとかできないかな。  
東口 (頷いて) だよな。恵のこと、もう誰も怒ってないんだし・・・。  
前野 俺は怒ってるぜ。あんな風に俺のこと、書きやがって。  
川崎 許せないわよね。  
緒方 乱暴で、クラブの後輩にも怖がられ、先生にはいつも怒られる問題児。あれ・・・どう考えても、おれだからな。  
福山 確かに・・・。  
緒方 ちえっ！(何かをたたく)  
北田 俺は読んでないけど・・・あいつ・・・ほんとにそんな悪口書いたのか？  
東口 私も、疑ってる。だって、私の知ってる恵は決して悪口を言わない、いつも穏やかな子だから・・・。  
西本 あのノート・・・途中のページ、誰かが破いてた。だから、私も読んだけど、ちょっとわかりにくかった。  
川崎 (頷いて) 私が読んだのも、ただの悪口ばっかだな〜って印象。  
原田 (思い切った感じで) みんな、聞いて！恵はただ小説を書いてただけで、誰かの悪口を書いてたわけじゃないの。ストーリーだってちゃんとあったし、夢中でずっと書

いてたの、私、知ってる。

川崎 じゃあ、私たちの誤解ってこと？なんだ・・・緑、もっと早く言ってよ。

前野 そうだよ。谷村がてっきり俺の悪口書いてるって思ったから、あいつに、カッとしちゃったじゃねえか。

本村 誰かが破いて、悪意にとるよう悪口だけのページだけ残したってことじゃない？

みんな、驚いた表情

緒方 そういえば、矢崎、お前が初めに谷村のノート見つけたんだよな。宿題のノートの中に紛れてあったって言ってたけど、ほんとか？

矢崎 (たじろいで) う、うん。

前野 俺、思い出したぞ。俺の悪口に見えたのは、ページが破られてたからなんだ。矢崎、俺の前に読んだ奴っているのか。部室でしゃべってた俺と卓也の所までわざわざ来て、お前、ノートを見せたじゃないか。

緒方 お前が渡したノートは、もう破られてたよな。(衝撃音)

顔を真っ赤にして出ていく矢崎

前野 なんだよ。あいつ。

橋本 恵が来なくなるなんて・・・こんなにクラスに広がるなんて思わなかった。(泣き出す) 私と麻耶が恵に小説見せてって何度いっても、緑には見せるくせに、私たちには見せようとししないの。なんか馬鹿にされてる感じで、腹が立って、これ使って、前野と緒方だったら、読んだらすぐ怒るだろうとか言って2人で仕組んだの。

緒方 はあ～おまえらなあ・・・。(前野も困惑気味)

門脇 橋本らも悪いけどさ。そもそも、宿題の中に、谷村のノート、紛らせて置いたやつがいるんだろ。考えたら、そいつが問題を起こした発端だよな。

北田 俺・・・みんなに黙ってたけど、あの社会のノートの束を置いたのは俺なんだ。

門脇 マジかよ。北田。

北田 勘違いしないでくれよ。あの日放課後、クラブに行きかけたら、吉村先生に途中で会って、みんなのノートの返却を頼まれて、一旦、教室にみんなのノートを置きに戻った。その時は、谷村のノートなんかなかったし、教室には誰もいなかった。

東口 じゃあ、北田くんが帰ったあと、誰かが、わざと置いたとか？

福山 わざとだったら、その恵のノートの存在を元々知ってた奴ってことだろ。

みんなワイワイと騒ぎ出す。

高橋 さっき誰かが言ったじゃん。恵が小説書いてるの一番知ってるのは私だって。

みんなの視線が原田に集まる。

原田 私だってほんとに思ってなかった。こんなふうに広がるなんて・・・。(絶叫)

震える緑。全体が暗くなる。緑にスポット。

原田 あの日、宿題を取りに帰った恵が、あのノートを机に忘れてて、中身を読んでびっくりしたんだ。親友づらしてるけど、クラスで3軍扱いされてるのを、友達のせいだと恨んでいる人物。これって、私のこと？自分がなんか恵にみすかされてるよう

な気がして、ショックで・・・。あの子が人に読まれるのを嫌がってたから、軽い気持ちで・・・宿題のノートに紛れ込ませたんだ。そしたら、ノートがボロボロになるわ、恵が来なくなるわ～思いもしなかった。そんなつもりはなかった。(号泣する)

本村 そんなつもりはない？緑、小学校の時とおんなじ言い訳するんだね。私さ仕事を押し付けられてばかりの恵を、いつも助けてるあんた見てたら、なんかいいなと思って・・・小学校の時みたいに、いつかはしゃべれるかなって思ってたんだ。原因作ったのがあんただったなんて・・・。恵は緑のこと一番友達だって思ってるんだからね。

奥村 そのノート、もうないんだろうけど、恵の思いがこもったその小説、私も最後まで読みたかったなあ・・・。

相沢 ノートの裏表紙見た？原田。  
顔を上げる緑

相沢 俺は見たよ。谷村は・・・原田のこと・・・ほんと頼りにしてたんだな。「いつも応援ありがとう。ファン第1号の親友へって」あれって原田のことだろ。  
何度も頷きながら泣いている原田。

北田 最後まで書けなかったかもな。谷村、小説の結末、どうするつもりだったんだろ？

橋本 (矢崎が顔を赤くして戻ってくる) 私・・・一度聞いたことある。ラストシーンに、校庭の中庭が出てくるんだって・・・。

門脇 中庭？

矢崎 (まだ泣きそうに) そこで、卒業式後の全員そろった写真撮影をするって言った。原田頷く。みんなそれぞれに考えている。

北田 おれ・・・今日つくづく思ったよ。卒業間近のこんな忙しい時に誰も帰らず、みんな話せるなんて、このクラスにしてはさ、奇跡だなんて。  
みんなが頷く。

前野 その奇跡・・・もう1回俺たちで起こせるかな。全員そろっての卒業写真！

**暗転**  
一面ハナミズキの映像。それを背景に写真を撮るポーズで立つ全員の姿

完

#### 参考・引用文献

- 1) LINE 2020 「LINE、本日でサービス開始から10年目へ」 <https://linecorp.com/ja/pr/news/ja/2020/3271>
- 2) ライフハック 2021 「リアル中学生に徹底調査！ガチで人気なアプリランキング」
- 3) 文部科学省 2008 青少年が利用する学校非公式サイトに関する調査報告書 [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/001/index48.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/index48.htm)
- 4) 富田博之 1993 演劇教育 国土社
- 5) 佐藤信(編) 2011 学校という劇場から一演劇教育とワークショップー 論創社